

とちテレ報道特集「とちぎ戦後 70 年」シリーズで全 5 回放送

戦後 70 年を迎え、記憶を風化させず平和を考えようと、県内でも各地で様々な人が活動しています。戦争を経験した世代は減り、改めて「声」に耳を傾け、「残す」ことの意義も問われています。とちぎテレビでは、人々の「思い」を、映像で伝える「とちぎ戦後 70 年」をシリーズでお伝えしています。7 月もニュース特集として 5 日間にわたってお送りします。



【7月27日（月）放送】

太平洋戦争で活躍した「戦艦武蔵」とみられる船体が、今年 3 月にフィリピン中部シブヤン海の海底で見つかりました。千葉県に住む現在 87 歳の男性は、船が沈む海を訪れて戦友の冥福を祈りました。男性は海を見て、こみ上げる感情を抑えきれません。当時の状況と平和への思いを聞きました。（共同通信社制作）

【7月28日（火）放送】

「フィリピンで戦死した当時 26 歳の伯父の最期を知りたい」と、さくら市の男性が、太平洋戦争で伯父と同じセブ島にいたという上三川町の 95 歳の男性の元を訪ねました。実は、この男性が伯父の遺体を埋葬していた事実がわかったのです。過酷な戦場を体験した「戦友」の話と、ずっと自分のルーツをたどるきっかけを探していた男性の思いを合わせて聞きます。

【7月29日（水）放送】

戦時中、労働力不足から生徒や学生たちが軍需産業に駆り出された「学徒動員」。県内でも大勢の学生たちが、「筆を投げうって」飛行場などへ奉仕作業を行っていました。このころ大田原女子高校に通っていた女性から、中島飛行機の宇都宮製作所での作業や寮生活の様子を聞くことができました。当時の女学生たちの思いとは。

【7月30日（木）放送】

大分県国東市に住む女性は、98 歳になった今も、子どもたちに音楽の素晴らしさを教えています。終戦当時、中国にいた藤岡さんは、さまざまな苦難に直面しますが、命を救ってくれたのはバイオリンでした。当時の過酷な状況と、若い世代にも伝えたいことを語っていただきました。（共同通信社制作）

【7月31日（金）放送】

戦没者の霊を弔うために岩壁を掘って作られたのが、宇都宮市大谷の巨大観音像です。世界平和を願いながら作った当時の石工たちの思いは…創建当時の写真などと合わせて、観音像を見守ってきた大谷寺の住職に話を伺います。

放送する番組

イブニング 6（よる 6 時～）・ニュースワイド 21（よる 9 時～）・ニュースとちぎの朝（翌日のあさ 6 時 30 分～）

※放送内容は、変更する場合があります。



本件に関するお問い合わせは
企画編成部 広報担当 田中 TEL:028-623-0082